



創造・感謝・勤労

# 飛 幡 中

2020年度

北九州市立飛幡中学校 学校通信

令和2年 7月8日 No. 4

発行責任者 校長 池 浩幸

学校所在地 戸畑区小芝一丁目8番20号

TEL093-882-3652 FAX 882-3618

## 【 部活動、通常活動始まる！ 当面は感染予防対策を講じた上で。 】

6月24日から制限付きで再開された部活動、約10日間の基礎的なトレーニングやチーム練習を段階的に行ってきましたが、ようやく今週から通常の活動に取り組むこととなりました。

6日(月)に放送にて部活発足式を行い、1年生の正式入部を含めた本格的な始動です。とはいえ、当面の間は、感染予防対策を講じた上での活動となります。特に3年生にとっては、夏季の中体連大会や吹奏楽などのコンクールが中止となっている中、代替試合(現在検討中)を目標に、最後の健闘を何らかの形で発揮したいものです。

何かひとつの「区切り」がどの部活動に対しても同じように約束されないかもしれませんが、練習できることそのものに喜びを感じ、感染者を出さない、広げないようこまめな手洗い、手指消毒等に徹底して取り組んでいきましょう。

## 【 父母教師会より寄付していただきました。 】

学校が再開されたとはいえ、朝の検温チェックや机の配置、給食や掃除時の特別な取り組み等々が続く日々です。最初は時間がかかっていたものの、子どもたちや職員皆の協力体制のもと、スムーズな流れでその感染拡大予防対策を行うことができるようになってきています。そんな中、毎日使用する手指消毒用の消毒が足りなくなってきました。また、掃除時間に使用する使い捨てのキッチンペーパーも底をついてきています。418名という全校生徒が毎日使うものですから、その消費量も大量なものになります。あわせて、アルコール消毒液はとても高価なものです。学校予算だけではとても足りません。そこで、本校父母教師会(P.T.A)からその両方を寄付していただきました。大変感謝しています。この感染予防対策がいつまで続くかわかりませんが、飛幡中の安心安全と平常化に向けて、保護者や地域の方から様々な激励をいただいています。また、日々の消毒業務に専門の職員も配置され、校舎内全てのトイレや手洗い場を毎日数回消毒しています。一日も早い、学校の平常化を祈念して有り難く使わせていただきます。学校教職員一同、お礼申し上げます。

- ・体調不良者(発熱や風邪の症状)は、部活動へは参加せず、自宅で休養する。
- ・使用した道具類や生徒が手を触れる箇所(ドアノブ、手すり、スイッチ等)は、教職員が1日1回消毒をする。
- ・屋内で活動するときは、2方向の窓を開けるなど通気よくする。開けられない場合でも、最低でも1時間に1回、5~10分間の換気を行う。特に運動部の場合は、窓を全開にし、外気を取り入れる。
- ・運動を行う際は、原則マスクを外して活動をし、飛沫感染予防の観点から2m以上離れて活動する。外したマスクは、記名したマスク入れ等に入れ、管理する。(マスクを着用しても良いが、激しい運動に負荷がかかりすぎて危険だけでなく、熱中症を誘発するため、大いに注意して着用すること。)
- ・部室内での更衣は行わない。
- ・使用する用具については生徒間で不用意に使いまわしを避ける。避けられない場合は、使用後に手洗いをを行う。給水用水筒やペットボトルは共用せず各自が準備し管理をする。
- ・ミーティングを行う際は、生徒同士が対面とならないような形で距離を確保すること。

## 【 給食時に対応、スクールシールドを配布します。 】

来週から給食時に自分の机に段ボール枠のシールドを各自が設置します。給食時はマスクを外し、口にものをに入れるため、飛沫感染のリスクが最も高い時間とも言われます。段ボールの枠を各自の机にクリップで止めて固定します。シールドも毎回消毒して袋に入れて保管します。少しでも感染リスクを軽減するための取り組みです。お互いのために協力をお願いします。

### 今がいちばん

お互い日々の生活の中で、さまざまな困難に出遭う。なぜこんな目に遭わなければならぬのかと、心が暗くなるような出来事が起こることもある。

そんな苦難、悲境の只中において、人は明日に希望をつなごうとする。今日は辛くても、我慢していれば、いいときが来る。生きていてよかったと思う日がきつと訪れる・・・。

いつか幸せになれるという希望をもつことで、自らを慰めるのもよい。しかし人間にとって最も幸せなのは、やはり、今がいちばんいいと感じられることではないか。

もちろんそれは、今さえよければいいということではない。常に今がいいと思える姿は、今さえよければいいという考えでは決して実現できない。

大事なものは、困難が過ぎ去るのをただ耐えて待つのではなく、最善の努力を尽くしてこれに乗って越えること。そうした姿勢に徹して試練と向き合い、克服していったこそ、今がいちばんいいという人生を送ることもできるのである。

“いつか”ではなく“今”を幸せに生きるための道を、積極的に、真剣に求めてゆきたい。

(PHPより)